

「第71回、北日本新聞文化賞」 表彰式・お祝いの会に出席して
～満足感と身が締まる思い～

岡田 美乃利 26期

私に関わっている地域コミュニティー「水橋橋まつり」の報告書3弾です。

一、「第71回、北日本新聞文化賞」の表彰式とお祝いの会が開催されました。

29の個人・団体の表彰でその中の1つが私も関わった「水橋橋まつり」も含まれています。県知事・県議長、県内の全市町村長・議長など富山県の有力者、200人が参加する式典とお祝いの会でした。

私は「水橋橋まつり」の関係者10人の中の1人として出席しました。私はこの様な規模と内容の会は初めての経験で貴重な体験を致しました。

案内状は1か月ほど前に来ていて、お互いに「服装は?」「靴は?」などと楽しそうにその当日が来たかのような会話が有り楽しみでもあり、満足感と気分も高揚していました。

表彰式では、3名の方からの文化賞受賞者からお礼の言葉が有り、続いて県知事・県議会議長、富山市長から祝詞がありました。受賞者の一人に県内出身の落語家・立川志の輔氏がおられ、郷土のみなさんのお蔭で何とか今日までやっていると郷土での出来事を明るく笑わせ・持ち上げてのスピーチはさすがだなと感心させられました。

一新聞社の行事に県知事、県議会議長、全市町村長・議長が出席していることにも「県内一」を誇る北日本新聞社の力だと思います。感心もしました。

二、「お祝いの会」では10テーブルに分かれてのお祝い会です。

水橋から参加した10人と握りずし・そば・ステーキ、果物、ウイスキー、焼酎・ワイン・ビールと飲み放題、食べ放題でした。

志の輔師匠などがこちらのテーブルにまわってこられた時、私は「師匠、私の姉のお婿さんは中学時代に師匠に教えたそうですよ」と言ったら、すかさず「あっ、テニスの監督をしていましたね」と返事が来たのにはビックリ。テニスの監督は知らなかったの。記憶力はさすがと思いました。

県知事や県議会議長とグラスを交わしたのも初めてのことで緊張しました。また、このような機会を数多く作ってつながりを広めることは大切だろうと思いました。

三、祝う会もお開きで、水橋10名全員で水橋へ帰り、2次会です。

みなさん、やはりハラの中は私の所が一番の受賞団体だな?「橋まつり、よう頑張ったね。力を併せ、事故もなく、怪我人も出さず。みんなに喜んで貰えて何よりの150年祭だった」の共通の喜びと誇りだったと思います。

私自身・実行委員をあと何年続けられるかわかりません。まだ、2～3年は地域と多くの人々と喜びを分かち合い元気でいたいと思っています。しかしこればかりは自分の思いだけではダメなので、多くの人意見を聴き、みんなと力を併せて頑張られる、そして少しは頼りにされる人で有りたいと思っています。

北野高校定時制で夜9時に授業終わって、それから色々な行事の準備をした事を昨日のように思い出しながらこの文章を書きました。

(私は富山市水橋地区の地域コミュニティー「水橋橋まつり150年祭」の実行委員と「150年祭記念誌」編集委員長の仕事を2018年は務めさせて頂きました)



水橋の仲間と右から2人目が岡田、その左が石井隆一県知事



志の輔師匠の受賞挨拶